

太宰府市俳句ポスト第百十三回入選者

令和三年十一月十日〜令和四年二月三日

選者 阿比留 初見

入選句

見ず知らず無言の会釈春を待つ 太宰府市 木村 順子

黄落を抜け黄落へ踏み入りぬ 福岡市 吉田 文代

絵馬見つめ思へば受験の遠き過去 長崎市 奥貴 登

マイペース守つて春の旅なりし 太宰府市 松尾 満子

冬鳥や鬼すべ堂を包む黙 春日市 永利 五十鈴

風立てば風に乗りたき散紅葉 福岡市 阿部 弘子

日差し濃し冬芽に紅を足すやうに 福岡市 梶原 敏子

ぽこぽこと浅沓ひびく初天神 太宰府市 吉嗣 知子

猪害に合ひし里山眠りけり 太宰府市 土師 累徳

冬鳥の声に刻山膨らみぬ 筑紫野市 馬場 三知子

すがれゆくものに冬日の惜しみなく 福岡市 島原 仁代

忙しとも華やげるとも官師走 太宰府市 白石 照子

臘梅の樹齢に適ふ香りかな 太宰府市 福永 恵美

師の句碑へまなざし預け聴く笹子 小郡市 斉田 日奈江

節分や人混み避けて待つ神事 太宰府市 有岡 和砂

もぐもぐとだいきおべんとうのりんご 福岡市 山口 楓未 五歳

太ざいふであきを感じてゆうえん地 福岡市 山田 純登 九歳

願い事叶うといいな初もうで 福岡市 いとうしゆり 十歳

太宰府で学業きがん新学期 広島市 河野 隼大 十四歳

冬の空親子で手つなぎ太宰府へ 広島市 木下 瑛介 十五歳